

地域猫活動報告書

瑞穂区瑞穂学区における取り組み

平成 29 年 8 月 18 日

特定非営利活動法人 L e e l o o
(リールー)

1. 概要

リールー Leelooは平成 28 年 2 月、瑞穂区瑞穂学区において、多数のノラ猫が生息し繁殖を繰り返している情報を得た。そこで有志住民と協力し、ノラ猫に避妊・去勢手術を実施し、可能な限り新しい飼い主を見つける活動を行った。また、近隣の住宅や町内会に活動内容を広報して理解を求め、地域猫活動へと繋がるよう働きかけた。

2. 活動地域

名古屋市瑞穂区〇〇〇町内、〇〇〇町内、〇〇〇町内、〇〇〇町内、

3. 活動期間

平成 28 年 3 月～

4. 活動に至る経緯

- 平成 28 年 2 月～3 月、リールー Leelooは瑞穂区瑞穂学区の住民 2 名よりノラ猫問題に関する相談を受けた。1 件は学区内のノラ猫の多さについて危惧する内容であり、1 件はノラ猫によるトラブルの解決法である。同年 3 月、リールー Leelooは 1 名の相談者とともに上記町内の各 2～3 か所でノラ猫の生息状況の確認を行った。町内の各か所では 3～10 頭ほどのノラ猫が確認され、このまま放置すれば数倍にも増えていくと推測されることから活動を開始する計画を立てた。

5. 活動前の状況

- 上記町内の各か所では、同系色の子猫、成猫が混じり集団で行動していることから、繁殖制限が施されることなく、ノラ猫の数が増えていることがうかがわれた。
- 主に夜間帯に集団で見かけられたノラ猫は通行人からもエサを与えられていたが、一定の場所においては決まった個体数であることから、特定のノラ猫の世話をしている住宅があることが予想された。
- 調査により特定できたノラ猫の世話をしている住宅の多くは、数年～十数年にわたり避妊去勢手術を施さずに世話を続けてきた。出産などで一定場所の猫の数が過密になった場合、その場所を離れ移動していくことが多いノラ猫の習性からすると、従来からすでに多数のノラ猫が町内を往来していたと考えられた。
- 各町内ではノラ猫についての課題が度々、取り上げられていたが、近隣からは追い払い解決をするという考えから、ノラ猫にはエサを与えないようにと話し合われていた。
- 過去 2～3 年において、保健所へのノラ猫問題について相談はなかった。

6. 活動の共同と町内への広報について

- 平成 28 年 4 月 各町内会長を訪問し、活動の主旨を伝えたいうで情報提供を求め

た。また、回覧板を利用した町内への広報の協力を求めた。

- ・平成 28 年 5 月 上記の状況について瑞穂保健所担当課に報告し、活動開始にあたり学区保健環境委員長との共同を申し入れた。
- ・平成 28 年 5 月 瑞穂保健所にて、保健所担当職員、学区保健環境委員長、^{リールー}Leeloo の 3 者は、問題の解決に向けた対策について検討した。
- ・平成 28 年 5 月 各町内に活動について回覧板を利用して広報した。
- ・平成 28 年通年 主に活動をおこなった場所では啓発チラシや報告チラシを戸別配付した。
- ・平成 29 年 7 月 各町内会に活動報告書を提出した。

7. 活動の実態について

- ・^{リールー}Leeloo は相談者とともにノラ猫の生息が確認された町内各所の近隣住宅を訪問しノラ猫の世話をしている住宅の特定を行った。
- ・特定できた住宅では、ノラ猫も地域に生きる命をして愛護の心を持ちたいとしていたが、避妊・去勢手術を施して世話をしている人は少なかった。また、手で捕まえられるノラ猫には避妊・去勢手術を行って飼い猫としている人もいた。
- ・避妊・去勢手術を行っていない理由としては、触ることが出来ない、動物病院まで連れていく方法がわからず自分では出来ない、費用が高い、オリに入った猫を見るのが辛い、繁殖制限の手段を知り得ないなどと様々であった。
- ・そこで^{リールー}Leeloo は、世話をしていた住民に避妊・去勢手術を行って管理していく必要性やその成果について説明し、共同していく同意を得た。そして、住民とともに自宅と自宅周辺のノラ猫の個体の識別と数の確認を行い、必要な援助を通じ協力を行った。各町内の活動内容は以下のとおり

(1) ○○○町内

すでになごやかキャットサポーターとして活動している住民と情報交換をし、町内会長への報告などで共同をはかった。町内の回覧板チラシにより 2 軒の住宅より連絡があった。1 軒は飼い猫を屋外に出しているという内容であった。1 軒はノラ猫を捕まえて避妊手術をしたいが困難をきわめているという内容であったため、捕獲器の貸し出しをして捕獲の援助を行った。^{リールー}Leeloo はチラシ配付と戸別訪問により得た情報より 7 軒の協力姿勢のある住宅とそれぞれ話し合いをもち、ノラ猫の避妊・去勢手術の実施に向け計画を進めた。ノラ猫の数が多い場所の周辺には活動についてのチラシを戸別配付した。^{リールー}Leeloo は当団体の避妊・去勢手術費用助成事業による手術費用無料チケットを利用し、平成 28 年度 5 頭、平成 29 年度 3 頭の手術を実施し、3 頭の子猫を保護して里親に譲渡した。

(2) ○○○町内

チラシ配付と戸別訪問によりノラ猫の世話をしていた住宅 5 軒が特定できた。このうちの 1 軒は 1 頭の世話をしていたが今後、飼い猫として飼育していく予定でいた。他の 4 軒は路地を隔てて隣り合う位置にあり、活動前にこの一角で生息が確認されたノラ猫の数は子猫も含めて 25 頭ほどとみられた。^{リールー}Leelooは 4 軒の住宅に呼びかけをして現状と問題点などについて話し合い、今後の活動方法についての提案をした。これによりそれぞれの住宅は各自、ノラ猫の管理の仕方を検討した。避妊・去勢手術については日時など具体的な計画を立て実行に移した。すでに、隣接する町内の住民 3 人は、この町内のノラ猫の多さを把握しており、子猫 4 頭を保護し親猫を避妊手術して元の場所に戻す活動を始めていた。^{リールー}Leelooは、当団体の避妊・去勢手術費用助成事業による手術費用無料チケットを利用し平成 28 年度 3 頭のノラ猫の手術を行った。また、9 頭の子猫を保護して里親に譲渡した。

(3) ○○○町内

ノラ猫を多く見かける周辺に限定したチラシ配付により、ノラ猫の世話をしていた 1 軒の住宅から連絡があった。自宅の庭に入ってきた子猫の保護はしていたが、避妊・去勢手術の方法がわからずに実施していなかった。そこでノラ猫の識別と餌付けを共同で行い、順次、捕獲の援助を行った。また、この住民とともに町内会長を訪問し、現状と活動内容を報告した。町内ではコンビニエンスストアが立地しており、道すがら給餌する人によりノラ猫が集まり、車の通行の障害となることが問題となっていた。給餌をしていた人は、自宅で世話が可能な近隣の住宅を探し、このノラ猫の世話を依頼して、道端で待つことがないようにさせた。^{リールー}Leelooは当団体の避妊・去勢手術費用助成事業による手術費用無料チケットを利用して平成 28 年度 3 頭の手術を実施した。また、子猫 5 頭を保護し里親へ譲渡し、ケガをした成猫 1 頭を保護し処置と療養をした。

(4) ○○○町内

相談者とともに実際に歩いての目視によるノラ猫の生息確認を数カ月に渡り行った。同時に行った戸別訪問によりノラ猫の世話をしている住宅が 5 軒特定出来た。回覧板による広報では 1 軒の住宅より飼い猫を外に出しているとの情報が寄せられた。町内を往来するノラ猫の数が他の町内より目立ったこともあり、町内会長との情報交換を適宜行った。5 軒の住宅とは避妊・去勢手術の実施に向けて、ノラ猫の生息情報を総合するために話し合いを持ち、その後、活動の具体的な計画を立てた。^{リールー}Leelooは避妊・去勢手術費用助成事業による手術費用無料チケットを利用して平成 28 年度 3 頭の手術を実施した。また、子猫 2 頭を保護し里親へ譲渡した。

8. 今後の課題と展望

町内の各所では、なごやかキャットサポーター、主旨に賛同して同様の活動を行なう住民ボランティア、当団体^{リールー}Leelooによりノラ猫の避妊・去勢手術が施され、年に2、3度出産をして繰り返された繁殖をとめることが出来た。同時に自宅敷地内に猫用トイレを設置しふん尿被害を減少させるよう心掛けた。しかし、町内には人との接点を持たない習性のノラ猫が多く確認され、今後、人目にふれない場所で繁殖していくことが危惧される。フン尿などの被害を受けている多数の人への救済は必要であり、エサを与えていることを迷惑とと思っている人への啓発は活動を広げていくためにも必要である。これらの課題を解決するために、できるだけ早い時期に広く広報をおこなって理解を求め、協力者の増員を図ることが望ましい。